

「エノコログサの毛虫遊び」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

1年生の子どもと、大学構内を散策した。私が附属小学校に赴任した35年前(20世紀)は、大学構内の各所に「風致された」区域があって、実に「自然が豊か」な環境だった。今の大学構内は、かなりきれいに整備されたものの、ところどころ「地面」があって、そこには必ず「雑草」が繁茂している。その「小さな風致地区」が実に大切なのだ。



今の時期は、初秋の野草が繁茂して、「草ボウボウ」という表現がぴったりだ。特に多いのが「エノコログサ」で、まるで収穫期の水田のように凄まじい数の穂を垂れている。



エノコログサは「猫じゃらし」というあだ名の通り、実際に猫をじゃらすのにも使える。しかし、一番面白いのは「毛虫遊び」だろう。



方法は簡単で、穂を下向きにして「ゆるいグー」で握って、その「握り方」に強弱をつければよい。指に対して小穂が逆さに向いているので、それだけで、穂全体がニョキニョキ出てくるのだ。



私が子どもの時は、エノコログサを見つけるなり、この遊びをしたものだが、1年生は誰も知らなかった。みんな夢中になって遊んでいた。



出終わった穂は、友達の胸元に向かって投げ「毛虫〜〜!!」とって驚かすのが、この遊びの正式な「作法」である。投げられたら「驚いて見せる」のも大切な「作法」である。エノコログサは実は食用にもなるらしいので、いつか食べてみたいと思っている。